

PROFILE

小野 富三人

大阪医科大学生理学教室



このたび大阪医科大学生理学教室に赴任しました小野富三人と申します。私は大分県の生まれで、ラ・サール高校卒業、1991年に東京大学医学部を卒業しました。国立国際医療センターで1年の内科研修後、東大脳研の高橋國太郎先生の教室に大学院生として入学しました。高橋研では現阪大医学部の岡村康司先生の指導のもと、ホヤ胚初期発生におけるイオンチャンネルについての研究に取り組みました。その後高橋先生の退官と、岡村先生の移動に伴い、当時の通商産業省工業技術院に移って学位を取得したあと、1998年からはニューヨーク州立大学ストーニーブルック校のポールブレーム教授のもとにポスドクとして留学しました。その当時ちょうど研究室で新しく立ち上げていた、ゼブラフィッシュ突然変異体の電気生理学をもちいた解析のプロジェクトを担当することになりましたが、その後現在にいたるまで実験動物としてはずっとゼブラフィッシュを使っています。2003年にはフロリダ大学の臨海実験所と医学部との兼任で、Assistant professorとして独立のラボをもちました。2007年にはNIHのアルコール依存症の研究部門NIAAAに移動し、アルコールの研究はメインのプロジェクトではなかったのですが、やはりゼブラフィッシュをもちいた神経系の研究を行いました。2014年に16年ぶりに日本に戻ることとなり、大阪医科大学の生理学教室の教授となりました。

今まで共同研究などではさまざまな分野にかかわってきましたが、自分のラボ内のプロジェクト

としては、神経筋接合部をモデルとしたシナプスの研究を独立以来一貫して行ってきました。アセチルコリン受容体の変異体を解析することにより、シナプス形成において受容体のはたす役割や、筋細胞の種類に応じて受容体の組成が異なることなどを明らかにしてきました。大阪医大ではNIH時代の3倍以上の広さのある研究室など、すぐれた研究環境と、意欲ある優秀なスタッフにも恵まれ、今までの研究をさらに発展させると同時に、新規の分野にも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。久しぶりに日本に帰って来て、若い生理学者と研究をつうじて交流するのも楽しみです。同時に学部の生理学の授業でも、学生に生理学の楽しさを伝えていきたいと思っています。臨床にすすむ学生であっても、生理学を理解することは将来の学習、研究、診療に必ず役にたつものと思います。アメリカでの研究の内容につきましては、JPSに総説を書かせていただきましたので、機会があればご覧いただけましたら幸いです。今後学会や研究会などでお目にかかることがありましたら、よろしく願いいたします。

略歴

平成3年	東京大学医学部卒業
平成8年	東京大学大学院医学研究科修士
平成10年	ニューヨーク州立大学研究員
平成15年	フロリダ大学助教授
平成19年	米国国立衛生研究所室長
平成26年	大阪医科大学教授